



京大広報

No. 603

2005. 7

目次

〈大学の動き〉

- 「京都大学ローム記念館」竣工記念式典を挙
行……………1964
- カリフォルニア大学デービス校と職員インター
シップ交流プログラム協定を締結……………1964
- 人権に関する研修会の開催……………1965
- 永年勤続者表彰式を挙……………1965

〈部局の動き〉

- 木の文化再生をめざした j.Pod 木造建物の完成
……………1966
- 基礎物理学研究所で湯川秀樹博士のユネスコ
メダルをスミ夫人へ伝達……………1967
- 日本学術振興会拠点大学交流事業により
LIPI(インドネシア科学院)長官が来学……………1967

〈寸言〉

- ダークブルーの復興 富江 徹……………1968

〈随想〉

- 大学における放射線影響研究に思う
名誉教授 佐々木正夫……………1969

〈洛書〉

- レトロウイルスとヒト 松岡雅雄……………1970

〈訃報〉

- ……………1971

〈日誌〉

- ……………1972

〈資料〉

- 役員
の報酬等および職員の給与の水準の公表
について……………1972

〈話題〉

- 京都大学未来フォーラム(第13回, 第14回, 第15回)
を開催……………1978
- 大学院情報学研究科 杉本明洋さんの
世界陸上2005出場が決定……………1978
- 医学部附属病院でボランティアによる
「水無月コンサート」を実施……………1979
- 医学部附属病院で安全管理研修会を実施……………1979

〈公開講座〉

- 霊長類研究所東京公開講座—サルからわかること
：ラボからフィールドまで—……………1980

〈編集後記〉

- ……………1980



京都大学ローム記念館竣工式典を挙
行—関連記事 本文 1964ページ—

京都大学広報委員会

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

大学の動き

「京都大学ローム記念館」竣工記念式典を挙げる

京都大学桂キャンパスに、ローム株式会社から寄贈を受けた「京都大学ローム記念館」が竣工した。本記念館は地上3階（塔屋1階）延べ約6,600㎡の建物で、約20億円をかけてローム株式会社が建設し、本学に寄贈されたものであり、産官学との連携活動を推進・支援する「国際イノベーション機構（IIO）」や、独創的・学問融合の研究展開を目指す「国際融合創造センター（IIC）」の本格的な活動拠点として活用する計画である。

去る5月27日（金）に学内外の関係者約200人の出席のもと竣工記念式典が開催された。

竣工記念式典は、同記念館玄関前でのテープカットで始まり、尾池和夫総長による挨拶の後、小田公彦文部科学省大臣官房審議官（研究振興局担当）、京都府知事（佐村知子副知事代読）、京都市長（星川茂一副市長代読）から祝辞が述べられ、ローム株式



施設見学の様子

会社へ尾池総長から感謝状が授与された。

続いて行われた施設見学では、京都市内を展望でき、各種国際会議・学術講演の会場として広く利用出来る300席の大ホールを始め、ナノテクノロジー等の先端研究や産学連携プロジェクト推進のための実験室等を見学した。

最後に祝賀会では、尾池総長の挨拶の後、株式会社堀場製作所の堀場雅夫取締役会長および清華大学国際技術移転センターの宋軍代表（黄澤民清華大学・清華科技园日本事務局総責任者代読）による祝辞に続いて、鏡開きがあり、長尾真前総長による乾杯の発声後、和やかに歓談が行われた。

新たなスタートを切った「京都大学ローム記念館」の発展を盛大に祈念した。



来賓・関係者による鏡開き

カリフォルニア大学デービス校と職員インターンシップ交流プログラム協定を締結

現地時間6月6日（月）、本間政雄副学長がカリフォルニア大学デービス校（以下UCデービス校）を訪れ、京都大学とUCデービス校との職員インターンシップ交流プログラムの協定を締結した。これは、大学国際戦略本部強化事業の一環として、国際関係事務職員養成のため本学職員に海外の大学に

おける実務研修を実施するもので、UCデービス校と相互に事務職員の派遣・受け入れを実施するものである。

同副学長は、この日、



調印後握手を交わす本間理事・副学長とUCデービス校Lacy副学長

午前にはUCデービス校 Larry N. Vanderhoef 学長と懇談後、同校の国際・プログラム担当の William B. Lacy 副学長と協定の調印を行った。その後、派遣・受け入れに関連する部署を訪問し、現場視



UCデービス校Vanderhoef学長との懇談の様子

察およびそれぞれの担当者と意見交換を行った。

また、2000年3月27日にカリフォルニア湾で発生した本学生態学研究センターの3名の教官が犠牲となった水難事故のモニュメントを訪れ黙祷を捧げた。



事故のモニュメントを訪問する本間副学長

人権に関する研修会の開催

6月9日(木)午後3時30分から、吉田南総合館において、「人権に関する研修会」が開催され、片柳榮一京都大学人権委員会同和・人権啓発専門委員会委員長の挨拶の後、約1時間にわたり講演が行なわれ、本学教職員及び学生約80人が熱心に聴講した。

本研修会は、学内外から講師を迎え、本学教職員・学生を対象として同和・人権問題の啓発を図る目的で、毎年、春と秋に2回開催している。今回は、大阪府立女性総合センターのフェミニストカウンセラー川喜田好恵氏を講師に迎え、キャンパス・ハラスメントの構造やどのような場合にハラスメントとなるのかなど、ハラスメント全般について「検証：キャンパ

ス・ハラスメント～ジェンダーとパワーの視点から～」というテーマで講演が行われた。

また、講演終了後、聴講者からの質問に対して、これまでの体験などを基に質疑応答が活発に行われた。



川喜田さんの講演の様子

永年勤続者表彰式を挙行政

永年勤続者表彰式が6月20日(月)に時計台百周年記念ホールにおいて開催され、尾池和夫総長、本間政雄理事、被表彰者118名、関係者(部局長、部課長等)約60名が出席した。

京都大学は、創立記念日(6月18日)において大学

教職員等としての勤続年数が20年及び30年を超えた教職員及び有期雇用教職員に対し、その永年にわたる勤労を讃え表彰している。今年度の被表彰者数は、勤続20年が94名、勤続30年が88名であった。

表彰式では出席の被表彰者の氏名を紹介した後、

尾池総長から、被表彰者代表の榊喜久子医学部附属病院看護師長に表彰状および記念品が授与され、被表彰者の永年の勤労に感謝する祝辞が述べられた。続いて、榊被表彰者代表から答辞が述べられ、厳かな雰囲気の中で表彰式は終了した。

総長式辞は総長室ホームページをご覧ください。

http://www.kyoto-u.ac.jp/uni_int/01_sou/050620_3.htm



答辞を述べる榊看護師長

部局の動き

木の文化再生をめざした j.Pod 木造建物の完成

小林正美地球環境学堂教授のグループ（鴻池組・桃季社・トリスマ株式会社・John Barr Architect）が共同開発した新たな木造建築工法「j.Pod」とフィールド科学教育研究センター（フィールド研）が進めてきた“森里海連環学”構想が合流し、総長裁量経費の支援を得て、フィールド研北白川試験地（北部構内）ならびに和歌山研究林（有田郡清水町）にモデル建物が完成した。4月14日（木）には北白川試験地において尾池和夫総長の、同28日（木）には和歌山研究林において辻 文三副学長の出席のもと竣工披露と記者発表を行った。

この j.Pod 工法は従来の木造建物に比べて耐震性

に非常に優れ、さらに低価格のため、日本の森に数10年間眠り続けている自前の木材を活用する道を開く可能性を秘めたものとして注目を集めている。それは20世紀からの“宿題”とも言える森の再生と都市の再生を一元的に実現する流れを生み出す可能性を有している。外界と呼吸する j.Pod 木造建物は、心の豊かさを育む学校教育現場には最適であり、すでにポケットゼミ等に利用され、会話がはずむなど好評を博している。今後、「森と都市の対話」を基調に、この京都と京都大学から人と自然の共存を展望した“木の文化再生”への広がりが期待される。

（フィールド科学教育研究センター）



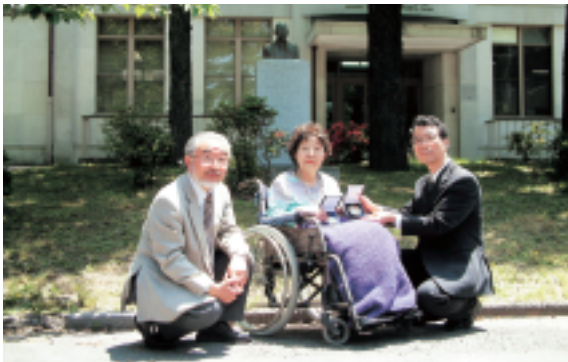
北白川 j.Pod でのポケゼミ風景



和歌山研究林 j.Pod 教育研究棟全景

基礎物理学研究所で湯川秀樹博士のユネスコメダルを スミ夫人へ伝達

基礎物理学研究所は、5月17日(火)に湯川秀樹博士の肖像をデザインしたユネスコメダル(銀製及び青銅製の2種類)の伝達式を行い、湯川博士の胸像の前で九後太一所長から湯川スミ夫人にメダルが手渡された。湯川博士の肖像はユネスコ親善大使である平山郁夫画伯(東京芸術大学長)がデザインされた。



湯川博士の胸像の前での伝達式

ユネスコメダルは、歴史的人物や出来事、世界遺産にちなむデザインでこれまでに52種類が発行されているが、日本にちなむデザインのメダルは初めて。なお、物理学者では、これまでアインシュタイン博士、ニールスボーア博士およびマリー・キュリー夫人のメダルが発行されている。

尾池和夫総長が挨拶の中で湯川博士の講義を受講した折の思い出を話され、湯川スミ夫人から当時のノーベル賞受賞式の様子や、アインシュタイン博士に出会った時のエピソードが語られた。



銀製(左)と青銅製(右)のメダル

(基礎物理学研究所)

日本学術振興会拠点大学交流事業によりLIPI(インドネシア科学院)長官が来学

日本学術振興会のインドネシア側対応機関であるLIPI(インドネシア科学院)のUmar Anggara Jenie長官他幹部2名からなる代表団が6月10日(金)に来学し、日本学術振興会拠点大学交流事業の拠点校である生存圏研究所関係者との懇談を行った。この懇談では、拠点大学交流事業の研究テーマである「熱帯森林資源の持続的な活用のための技術開発」および同研究所の研究目標である「生存圏科学」とその実施研究体制について情報交換を行った。



LIPI代表団と生存圏研究所関係者との懇談

同日午後には、生存圏研究所木質ホールにおいて、宇治地区のインドネシア留学生・研究者および関係者を対象とする講演会が実施された。

Jenie長官からLIPIの研究内容について講演が行われ、直接聴講する機会を得た参加者には、大変好評であった。

また、6月13日(月)

午前には入倉孝次郎副学長との懇談がもたれ、現在、LIPIの研究組織である生物材料研究センターと生存圏研究所との間で締結されている学術交流協定、ならびに京都大学とLIPIとの長年にわたる交流実績を踏まえ、今後の交流発展について活発な意見交換が行われた。

(生存圏研究所)



Jenie長官による講演



LIPI代表団と入倉副学長との懇談

寸言

ダークブルーの復興

富江 徹

■追い出しコンパ

「きょうとだいがくの～
ぜんにほん～インカレにおけ
る～ひっしょうをきして～」

「フレ～ フレ～
きょうだい～」

エール系の学生の蛮声が京
都駅前広場に轟き渡る。現役
学生、そして追い出しコンパにかけつけたOB数十
名の円陣、そしてその外に何事かを見守る市民・通
行者の輪。

何十年経っても変わらない風景。風景だけではな
い、学生、OB一体となって、ひたすらインカレ優
勝にかける心意気もなんら変わっていない。

■創部70周年

創部1935年。穏やかな琵琶湖の北風の吹く中、創
部70周年を琵琶湖上で祝う。

集まったOBは戦前の昭和17年卒から今春卒まで
の200人超、みんなこの琵琶湖で汗と涙を流しなが
らインカレ優勝を目指した面々。単にインカレ優勝
を目指したという過去形ではない、今も現役と一緒
にインカレ優勝を目指してやまないOBの集団。

「きょうとだいがくの～ ぜんにほん～インカレ
における～ひっしょうをきして～」

エール系の学生の蛮声が今日は湖上に轟き渡る。

70周年はインカレ優勝に向けての決起集会。決し
て往時を懐かしむ、といった言葉で表現できるもの
ではない。

■恐ろしきかなインカレ

インカレとは All Japan Intercollegiate Yacht
Championship「全日本学生ヨット選手権」のこと
であり、日本全国のすべての大学のヨット部の学生
たちが目指すレースである。厳しい水域（地方）予
選を通過した24校で全日本学生の覇者を決める。今
年で70回目。

インカレという言葉ほど魅惑のある言葉はない、
ほとんど魔物の世界でもある。なぜなのか。それは一
生に一回しかめぐってこない機会だからである。オ
リンピックでも国体でも、次回がある。大学受験
だって来年がある。宝くじだって次回がある。それ
に引き換え、インカレは1回でおしまいである。カ
レッジセーラのカレンダーはインカレの日までしか

ない。それが故、すべてをインカレにかけて4年間
を過ごすわけである。

そこに待つのは、勝利という美酒、母校の榮譽と
いう誇り、そして一気に燃え尽きるという自虐の快
感…母校の榮譽という言葉が生きている世界。

■ダークブルーヨットクラブ

学生のため、否、現役学生とOBが心一つにし
てインカレ優勝を掴み取らんとする希少価値的な集
団、ダークブルーヨットクラブ。ヨット競技は、
ヨットの性能を最大限に引き出す頭脳、そして厳し
い自然に立ち向かう体力と精神力を必要とする総合
的な競技であり、京大生にとって適したスポーツで
あるといえる。過去優勝2回、入賞26回。ところが、
過去の栄光に比して明日は必ずしも明るくない。大
きな課題は、スポーツ環境の変化。そしてそれにつ
いてゆけない状況。

課題その1、部員数の減少。体育会離れ。最大の
原因は、スポーツを体育＝教育としてしか見れな
かったこと。楽しむことを忘れたこと。課題その2、
競技の高度化。入学から始め4年間幾ら頑張っても
ジュニア上がりの選抜選手に対抗できない現実、そ
れほどまでに高度化したカレッジスポーツの世界。
課題その3、練習環境の整備の遅れ。最大限の練習
効果を発揮できる練習場や合宿場、競技用具などの
整備不足。

■ダークブルー・ルネッサンス

気がついてみればほとんどの体育会が抱えている
課題でもある。そして、その解決には、もはやOB
ですら限界に達しつつある。

問題はこの課題を大学改革の流れの中で大学の問
題として認識するのか、それともあくまで今までと
同じく課外活動として認識するのか、の違いであろ
う。それ以前の問題かも知れない。そのような議論
をするのか、といった入り口論かもしれない。

ただもし、カレッジスポーツについてその価値を
見直し大学改革の中で課題の解決をしてゆこうとす
るのなら、実業界で進められている産学連携のよう
な進め方を参考に、大学、学生、卒業生、一体と
なった新たな学生のためのスポーツ支援組織を構築
する方法があるのではなからうか。

大学は何をするのか、OBは何をしなければなら
ないのか、結果として学生にどんな支援が出来るの
か。もう一度問い直す時期かもしれない。

（とみえ とおる 京都大学体育会ヨット部OB会
理事長 昭和46年工学部卒）

随想

大学における放射線影響研究に思う

名誉教授 佐々木正夫

2000年3月に本学を停年退官し、今は国の原子力安全研究、緊急時被ばく線量評価ネットワーク、国連科学委員会、国際放射線研究連合などでの活動が老化防止対策となっている。退官5年ともなれば、「古希」とも、「心の欲するところに従い、矩を踏えず」とも言われる化石の年齢を迎えるが、相変わらず憎まれ口の多い自分に反省も多い。京都大学には創設間もない放射線生物研究センターに1978年に着任し、以来22年間にわたりご支援を頂いた。本学出身でない私にとってはその自由な学風に新鮮な刺激を受け、今でも誇りに思い、心から感謝している。



退官間際の1999年9月30日に起こった東海村ウラン加工施設JCO事業所における臨界事故は、いろんな意味でその後の私の生活にも大きく影響を与えた。私も事故直後に全国の大学の研究者を中心とした(旧)文部省・科技庁合同の学術調査班を組織し、影響調査に当たった。行政、事業者、地方自治体、住民などそれぞれの論理が錯綜する難しい問題もあったが、大学の調査研究に対する地方自治体と住民の信頼には感銘を受け、それが今でも原風景となって心に残っている。今や「安全と安心」は標語ともなっているが、安心は何者にも制約されない絶対的科学のみが可能とすることを改めて教えられた。この事故を契機に国の安全管理・規制体制は強化され、また安全研究における大学の役割の重要性は総論としては意見の一致を見るものの、現行の予算体系の制約から、議論もいつしか遠景となる。

一方、大学における影響研究の国際貢献度は高い。国連科学委員会(加盟国は21カ国)は放射線の線源と影響に関する最新の学術的知見を総括し、国連総会に提出する。本年9月の会合で第53回会合となる。会議に先立ち草案が提示され、予め各国で内容・資料等について検討し、会議で最終案として約

5年単位でまとめていく。純学術的なデータベースであり、その内容は国際放射線防護委員会や国際原子力機関の放射線防護に関する勧告の基礎となっている。最新の2000年報告は約1400頁という膨大な報告書となっている。最近の影響分野は分子生物学的基盤に重点が移ってきているが、日本の研究の引用は全体の約5%で、そのうちの86%が大学からの論文であることは我が国の放射線影響研究における大学の貢献の大きいことを物語っている。

大学における影響研究の財政基盤は依然として弱体である。図らずも塩川正十郎前財務大臣が特別会計予算を評して「母屋では雑炊を食べているのに、離れではすき焼きを食べている」と例えたように縦割り型予算の弊害をもろに受けていると言える。これまで大学における放射線影響研究は主として全国共同利用研究と研究交流を基盤として展開されてきた。しかし、大学の法人化に伴いその機能低下が懸念されている。大学の運営費交付金のうち、特別教育研究費の一部は共同研究の組織化に当てられるが、それとて、大学の重点事項として高く評価され、概算要求に計上されなければならない。最近、学術協力財団はこの危機的状況を認識し、「新たな全国共同利用体制の確立に期待する」という報告書を文部科学省に提出した。全国の大学に附置されている全国共同利用研究所の連携による総合研究機構案である。期待を込めて見守りたいが、自主性と独自性が求められる現在の大学法人に馴染める機構か問題も多い。京都大学には全国の研究拠点となっている全国共同利用施設が多い。これらが連携した他大学に誇れる研究機構の形成も考えられよう。いずれにしても、その基盤には競争的研究環境での個性ある研究があることに変わりはないであろう。発展への期待は大きい。

(ささき まさお 元放射線生物研究センター教授
平成12年退官、専門は放射線生物学)

洛書

レトロウイルスとヒト

松岡 雅雄

10年ほど前に「アウトブレイク」というダスティン・ホフマン主演の映画が話題になったが、この映画のモデルはエボラ出血熱だったと記憶している。最近はSARSウイルス、トリインフルエンザウイルス、西ナイル熱ウイルス、ニパウイルスと次々と新たな「ウイルス」が出現し映画の題材としては陳腐化してしまった感がある。



レトロウイルスは、自分自身のRNAをDNAに変えて宿主ゲノムに潜り込む性質を持ち、多くの動物でがんを起こすことが知られていた。しかし、ヒトでは、そのようなレトロウイルスが長い間、見つからなかったが、初めて見つかったレトロウイルスで起こるヒトの病気が“成人T細胞白血病”である。成人T細胞白血病は京都大学で見つけられた病気であり、その原因ウイルスであるヒトT細胞白血病ウイルスの発見にも京都大学は大いに貢献した。私は血液内科医として成人T細胞白血病の研究を始め、現在はウイルス研究所でヒトレトロウイルス研究を続けている。成人T細胞白血病を引き起こすヒトT細胞白血病ウイルスは約5万年前にサルから人類に入り込んできたと考えられている。その後、いくつかの伝播の波があり今日では日本、アフリカ、南米、カリブ海沿岸諸国などに1000万から2000万人の感染者がいると推定されている。とりわけ日本には100万人の感染者がおり、“ヒトT細胞白血病ウイルス”大国となっている。全ての感染者が発症する訳ではなく、2-5%の人に成人T細胞白血病が起こる。成人T細胞白血病は非常に予後の悪い病気であり、その名の通り大人で発症し、日本では平均発症年齢は約60才である。このウイルスは主に母乳を介して母から子に感染するため、ウイルスからみると次の世代に感染する機会が失われた頃、“宿主”を倒してしまうので、ウイルス自身には余り不利益はないのであろう。しかし、この“がん”という副産物はヒトにとっては極めて厄介な代物である。

現在、人類に大きな災厄をもたらしているエイズウイルスは約70年前にチンパンジーからヒトに進出したと考えられている。最近、明らかになったようにチンパンジーとヒトのゲノムは98.5%一致しており、チンパンジーで最適化したエイズウイルスは、至極当然のようにヒトに感染できた訳である。しかし、チンパンジーでは殆ど病気を起こさないエイズウイルスは、不幸なことにヒトでは高率にエイズを起こす。チンパンジーの“エイズウイルス”の由来は他のサルのレトロウイルスに由来すると考えられており、サルの捕食を介してチンパンジーに移ったのであろう。その感染により病気を発症する個体は生き残らず、子孫も残せないため、ウイルスに抵抗性の個体が生き残り、やがては“抵抗性”のチンパンジーだけになっていったのではないだろうか？実際、約1%のヒトはエイズウイルスに感染してもウイルスが増えず発症しないことが知られている。エイズウイルスがヒトに侵入して、まだ日が浅く“折り合い”が付くには程遠い状況である。

エイズもアフリカの熱帯雨林地域に元々あった病気が都市化の波の中で、まず現地に拡がり、次に全世界に伝播していったものと考えられる。都市化、臓器移植、グローバリゼーションという人類の営みが新たなウイルス、疾患を生み出しているというのは、ある意味、皮肉である。エイズウイルスとヒトが自然に“折り合い”を付けるためには、余りにも多くの犠牲が必要であり現実的ではない。そこで薬剤の登場となる訳で、エイズに対する薬剤は先進国では既に大きな成功を収めている。しかし、膨大な医療費がかかるために発展途上国では恩恵に浴することができない人は一握りである。考えてみればCO₂排出増加による温暖化も似通った問題であり、ヒトは便利で快適な長生きの人生を実現したものの、大きな難問が待ちかまえ、それを克服するために再び大きな資産と労力を費やしている。感染症の問題も同様であり、このウイルスからの警告を生かしウイルスを含んだ環境と如何に“折り合い”を付けるかが大きな課題だと感じている。

(まつおか まさお ウイルス研究所教授、専門はウイルス学、血液学)

訃報

このたび、^{あじさかつぎ お}鯨坂二夫名誉教授、^{まき} ^{じろう}牧 二郎名誉教授が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

以下に両名誉教授の略歴、業績等を紹介いたします。

鯨坂 二夫 名誉教授



鯨坂二夫先生は、5月12日逝去された。享年96。

先生は、昭和7年京都帝国大学文学部を卒業、同大学大学院(文学部)に在籍の後、浜松師範学校教諭、静岡師範学校教諭、東京農業教育専門学校教授、鹿児島県青年師範学校教授、鹿児島大学教授を経て、同25年8月京都大学教育学部教授に任ぜられた。

昭和47年3月京都大学教授を停年により退職され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。退職後は同年5月から平成5年3月まで約21年間にわたり甲南女子大学長・同短期大学長を務められた。

先生は研究面においてはドイツの教育学、アメリカの教育学特にデューイの教育学についての深く且つ幅広い教養を背景にして、教育方法学、特に教育課程の研究に従事された。

活動分野は大学での理論的研究のみにとどまらず、学校、PTA、教育委員会等、教育の現場における実践的指導を通じて、多くの優秀な教育者の育成に貢献された。

また、先生は日本教育学会理事、関西教育学会会長として、日本教育界の発展に指導的役割を果たされるなど、優れた研究業績のみならず、研究者の組織化とその研究成果の総合において多大な功績を残され、研究者及び研究の組織者としての優れた能力についても高く評価された。

なお、先生は教育課程審議会委員、大学設置審議会専門委員、大学設置審議会委員、大学設置基準研究委員会委員、文学視学委員、教育職員養成審議会委員としてその重要な職責を果たされた。

このような永年にわたる日本の教育に尽くした功績から、昭和56年勲二等旭日重光章を授与された。

(大学院教育学研究科)

牧 二郎 名誉教授



牧 二郎先生は、5月31日逝去された。享年76。

先生は、昭和27年3月東京文理科大学(東京教育大学)理学科を卒業、同30年11月まで同大学研究科に在学の後、名古屋大学理学部研究補助員を務め、同大学理学部助手、助教授を経て、同41年3月京都大学基礎物理学研究所教授に任ぜられ、素粒子研究部門を担当された。平成4年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、昭和45年4月から同51年3月まで、および同55年4月から同61年3月まで、通算5期12年にわたり基礎物理学研究所長ならびに評議員を併任し、本学の管理運営に参画して大学行政に貢献するとともに、全国共同利用研究所としての研究活動の円滑な運営と発展に尽力された。本学退官後は、平成4年から同11年まで近畿大学理工学部特任教授に就任され、教育研究活動を続けられた。

先生は、勃興期にあった素粒子論、特に素粒子の統一模型の分野において多くの優れた研究業績をあげられた。中でも、昭和37年になされたニュートリノ振動の予言は、30数年後にスーパーカミオカンデで実験的に確認され、素粒子の標準模型を超えた重大な事実の発見につながった。この業績は、三種類のニュートリノの混合を表す行列が牧-中川-坂田(MNS)行列と呼ばれて顕彰されると共に、平成14年の素粒子メダルの授賞対象となった。また、昭和38年には、ハドロン基本粒子の四元模型を提唱されたが、同49年の第四のクォーク、チャームの発見により実証され、同52年仁科記念賞を受賞された。

また、日本学術会議では原子核特別委員会委員、物理学研究連絡委員会委員、科学史研究連絡委員会委員、第13期日本学術会議会員等を歴任し、我が国の基礎科学の発展に尽くされた。さらに昭和58年度並びに平成元年度には日本物理学会会長として、学会の運営と発展に多大な寄与をされた。

(基礎物理学研究所)

日誌 2005.5.1～5.31

- 5月3日 尾池総長の高麗大学訪問（5日まで）
- 9日 役員会
- 10日 情報環境機構運営委員会
- 〃 広報委員会
- 11日 学生部委員会
- 〃 入学者選抜方法研究委員会
- 12日 第16回A E A R U理事会（15日まで）
- 〃 学術交流協定調印式
- 15日 国際交流委員会
- 16日 役員会
- 17日 部局長会議
- 〃 図書館協議会
- 〃 施設整備委員会
- 〃 全学共通教育委員会
- 18日 企画委員会
- 20日 全学共通教育システム委員会
- 23日 博士学位授与式
- 24日 財務委員会
- 25日 企画委員会
- 27日 京都大学ローム記念館竣工式
- 30日 役員会
- 31日 財務委員会
- 〃 教育研究評議会

資料

役員報酬等および職員の給与の水準の公表について

国立大学法人京都大学の役職員の報酬・給与等について

I 役員報酬等について

①役員報酬等の支給状況

| 役名 | 平成16年度年間報酬等の総額 | | | | 就任・退任の状況 | |
|---------------------|----------------|--------------|----------|---|----------|----|
| | 千円 | 報酬（給与） 千円 | 賞与 千円 | その他（内容） 千円 | 就任 | 退任 |
| 法人の長 | 24,620 | 15,936 | 6,880 | 210 1,593 (通勤手当) (調整手当) | | |
| 理事 (6人) | 110,610 | 71,352 | 30,806 | 830 7,135 492 (通勤手当) (調整手当) (単身赴任手当) | | |
| 理事 (非常勤) (1人) | 8,057 | 5,232 | 2,768 | 57 (通勤手当) | | |
| 監事 (1人) | 13,070 | 9,396 | 2,679 | 54 939 (通勤手当) (調整手当) | | |
| 監事 (非常勤) (1人) | 768 | 715 | 0 | 53 (通勤手当) | | |

【注】「調整手当」とは、民間における賃金、物価及び生計費が特に高い地域に在勤する役員に支給されているものである。

②役員退職手当の支給状況（平成16年度中に退職手当を支給された退職者の状況）

| 区分 | 支給額（総額） | 法人での在職期間 | | 退職年月日 | 業績勸案率 | 摘要 |
|------|---------|----------|---|-------|-------|-------|
| | 千円 | 年 | 月 | | | |
| 法人の長 | | | | | | 該当者なし |
| 理事 | | | | | | 該当者なし |
| 監事 | | | | | | 該当者なし |

Ⅱ 職員給与について

①職種別支給状況

| 区 分 | 人 員 | 平均年齢 | 平成16年度の年間給与額（平均） | | | |
|--------------|---------|--------|------------------|-----------|--------|----------|
| | | | 総額 | うち所定内 | | うち賞与 |
| | | | | うち通勤手当 | | |
| 常勤職員 | 4,440 人 | 44.6 歳 | 7,994 千円 | 5,781 千円 | 139 千円 | 2,213 千円 |
| 事務・技術 | 1,232 人 | 43.5 歳 | 6,142 千円 | 4,505 千円 | 155 千円 | 1,637 千円 |
| 教育職種（大学教員等） | 2,524 人 | 46.5 歳 | 9,462 千円 | 6,796 千円 | 146 千円 | 2,666 千円 |
| 医療職種（医 師） | 該当者なし | | | | | |
| 医療職種（看 護 師） | 472 人 | 36.7 歳 | 5,403 千円 | 3,977 千円 | 62 千円 | 1,426 千円 |
| 教育職種（外国人教師等） | 6 人 | 56.7 歳 | 11,161 千円 | 7,877 千円 | 90 千円 | 3,284 千円 |
| 医療職種（医療技術職員） | 147 人 | 42.1 歳 | 6,111 千円 | 4,475 千円 | 135 千円 | 1,636 千円 |
| 技能・労務職種 | 43 人 | 55.0 歳 | 5,915 千円 | 4,327 千円 | 127 千円 | 1,588 千円 |
| 指定職種 | 16 人 | 59.1 歳 | 17,151 千円 | 12,377 千円 | 159 千円 | 4,774 千円 |

【注】「指定職種」とは、特に指定された高度な業務を行う職種を示す。

| | | | | | | |
|------|-------|--|--|--|--|--|
| 在外職員 | 該当者なし | | | | | |
|------|-------|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-------------|-------|--------|----------|----------|--------|----------|
| 任期付職員 | 50 人 | 43.8 歳 | 9,269 千円 | 6,712 千円 | 123 千円 | 2,557 千円 |
| 事務・技術 | 該当者なし | | | | | |
| 教育職種（大学教員等） | 50 人 | 43.8 歳 | 9,269 千円 | 6,712 千円 | 123 千円 | 2,557 千円 |
| 医療職種（医 師） | 該当者なし | | | | | |
| 医療職種（看 護 師） | 該当者なし | | | | | |

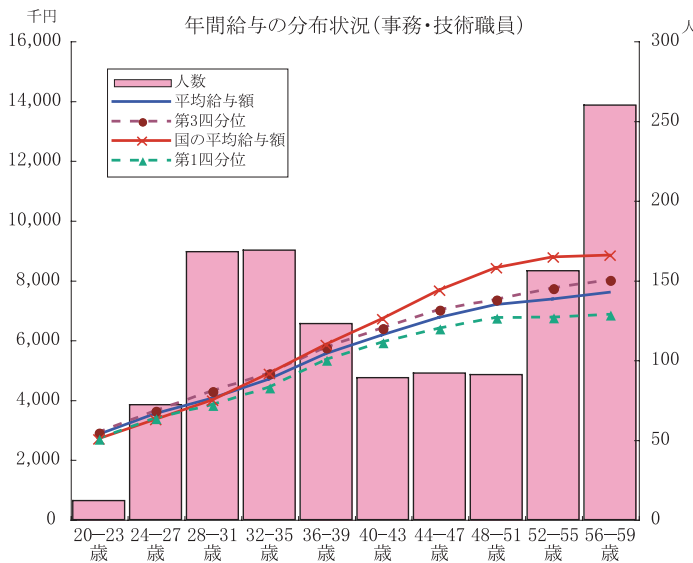
| | | | | | | |
|-------------|-------|--|--|--|--|--|
| 再任用職員 | 1 人 | | | | | |
| 事務・技術 | 1 人 | | | | | |
| 教育職種（大学教員等） | 該当者なし | | | | | |
| 医療職種（医 師） | 該当者なし | | | | | |
| 医療職種（看 護 師） | 該当者なし | | | | | |

【注】再任用職員については、該当者が1名のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、「平均年齢」以下の事項については記載していない。

| | | | | | | |
|-------------|-------|--------|----------|----------|--------|----------|
| 非常勤職員 | 299 人 | 41.2 歳 | 4,355 千円 | 3,453 千円 | 95 千円 | 902 千円 |
| 事務・技術 | 91 人 | 54 歳 | 4,236 千円 | 3,137 千円 | 108 千円 | 1,099 千円 |
| 教育職種（大学教員等） | 126 人 | 35.4 歳 | 5,473 千円 | 4,173 千円 | 86 千円 | 1,300 千円 |
| 医療職種（医 師） | 77 人 | 34.6 歳 | 2,662 千円 | 2,662 千円 | 94 千円 | 0 千円 |
| 医療職種（看 護 師） | 該当者なし | | | | | |
| 技能・労務職種 | 5 人 | 57.3 歳 | 4,397 千円 | 3,242 千円 | 84 千円 | 1,155 千円 |

【注】常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

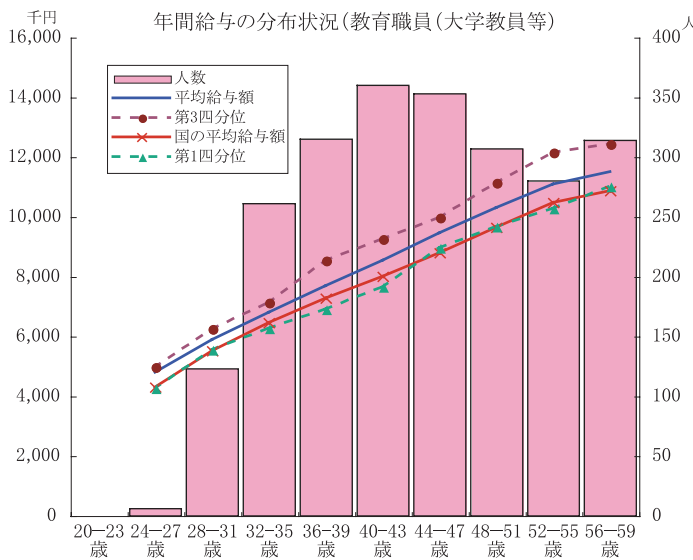
②年間給与の分布状況（事務・技術職員／教育職員（大学教員等）／医療職員（看護師）〔在外職員，任期付職員及び再任用職員を除く。以下，⑤まで同じ。〕



（事務・技術職員）

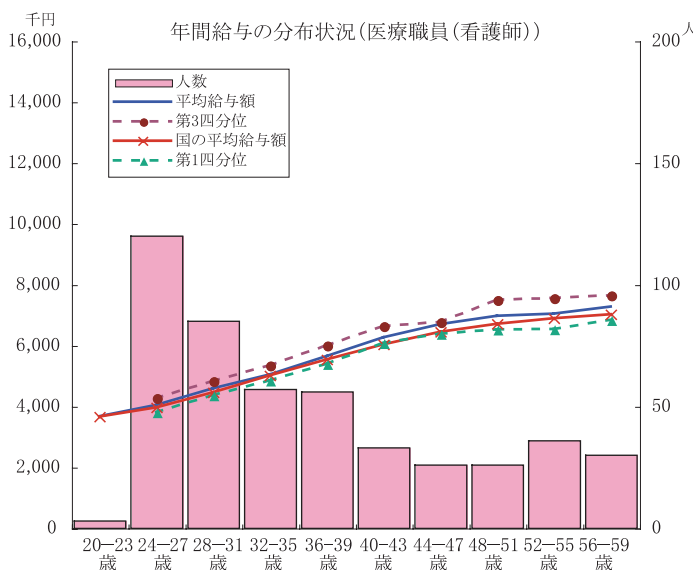
| 分布状況を 示すグループ | 人員 人 | 平均年齢 歳 | 四分位 | 平均 | 四分位 |
|-----------------|---------|-----------|------------|--------|------------|
| | | | 第1分位 千円 | | 第3分位 千円 |
| 部長 | 11 | 56.0 | 10,459 | 10,996 | 11,920 |
| 課長 | 53 | 55.9 | 8,388 | 8,838 | 9,256 |
| 課長補佐 | 101 | 53.0 | 6,895 | 7,386 | 7,909 |
| 係長 | 219 | 49.7 | 6,533 | 6,908 | 7,308 |
| 主任 | 291 | 41.9 | 5,076 | 5,666 | 6,423 |
| 係員 | 557 | 38.7 | 3,871 | 5,168 | 6,727 |

【注】本法人には「本部課長」及び「地方課長」と区分がないため、原則として「本部課長」を掲げるところ、「課長」を記載した。なお、「課長」には、課長相当職である「室長」及び「事務長」を含む。



（教育職員（大学教員等））

| 分布状況を 示すグループ | 人員 人 | 平均年齢 歳 | 四分位 | 平均 | 四分位 |
|-----------------|---------|-----------|------------|--------|------------|
| | | | 第1分位 千円 | | 第3分位 千円 |
| 教授 | 898 | 54.2 | 11,029 | 11,628 | 12,238 |
| 助教授 | 724 | 45.0 | 8,792 | 9,203 | 9,750 |
| 講師 | 137 | 43.8 | 7,897 | 8,483 | 9,183 |
| 助手 | 744 | 39.1 | 6,338 | 6,880 | 7,494 |
| 教務職員 | 21 | 47.2 | 5,003 | 6,045 | 6,692 |



（医療職員（看護師））

| 分布状況を 示すグループ | 人員 人 | 平均年齢 歳 | 四分位 | 平均 | 四分位 |
|-----------------|---------|-----------|------------|-------|------------|
| | | | 第1分位 千円 | | 第3分位 千円 |
| 看護部長 | 1 | | | | |
| 副看護部長 | 3 | 52.2 | | 7,964 | |
| 看護師長 | 128 | 45.1 | 5,995 | 6,625 | 7,419 |
| 看護師 | 340 | 33.4 | 4,080 | 4,822 | 5,390 |

【注】看護部長については、該当者が1名のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、「平均年齢」以下の事項については記載していない。

③職級別在職状況等（平成17年4月1日現在）（事務・技術職員）

| 区分 | 計 | 1級 | 2級 | 3級 | 4級 | 5級 | 6級 | 7級 | 8級 | 9級 | 10級 | 11級 |
|------------------------|------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|------------------------|-------------------------|-------------------------|------------------|
| 標準的な職位 | | 係員 | 係員 | 係員主任 | 主任係長 | 係長 | 係長 課長補佐 | 課長補佐 課長 | 課長 | 部長 | 部長 | 部長 |
| 人員 (割合) | 1,232 人 | 12 人 (1.0%) | 83 人 (6.7%) | 302 人 (24.5%) | 355 人 (28.8%) | 249 人 (20.2%) | 140 人 (11.4%) | 61 人 (5.0%) | 21 人 (1.7%) | 6 人 (0.5%) | 3 人 (0.2%) | 0 人 (0.0%) |
| 年齢 (最高～最低) | | 23～20 歳 | 31～24 歳 | 52～25 歳 | 59～34 歳 | 59～42 歳 | 59～32 歳 | 59～53 歳 | 59～44 歳 | 58～50 歳 | 59～53 歳 | |
| 所定内 給与年額 (最高～最低) | | 千円 2,387～ 1,959 | 千円 2,951～ 2,297 | 千円 4,207～ 2,395 | 千円 5,781～ 3,214 | 千円 6,176～ 4,394 | 千円 6,153～ 4,664 | 千円 7,229～ 5,399 | 千円 7,720～ 6,505 | 千円 8,387～ 7,508 | 千円 8,655～ 8,412 | 千円 |
| 年間給与額 (最高～最低) | | 千円 3,099～ 2,679 | 千円 3,906～ 3,141 | 千円 5,648～ 3,263 | 千円 7,625～ 4,452 | 千円 8,190～ 6,111 | 千円 8,508～ 6,310 | 千円 9,654～ 7,584 | 千円 10,400～ 8,892 | 千円 11,417～ 10,459 | 千円 11,988～ 11,920 | 千円 |

職級別在職状況等（平成17年4月1日現在）（教育職員（大学教員等））

| 区分 | 計 | 1級 | 2級 | 3級 | 4級 | 5級 |
|------------------------|------------|-----------------------|-----------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 標準的な職位 | | 教務職員 | 助手 | 講師 | 助教授 | 教授 |
| 人員 (割合) | 2,524 人 | 21 人 (0.8%) | 745 人 (29.5%) | 143 人 (5.7%) | 721 人 (28.6%) | 894 人 (35.4%) |
| 年齢 (最高～最低) | | 59～28 歳 | 62～24 歳 | 62～30 歳 | 62～31 歳 | 62～38 歳 |
| 所定内 給与年額 (最高～最低) | | 千円 5,184～ 3,359 | 千円 6,614～ 2,793 | 千円 7,429～ 3,674 | 千円 8,999～ 4,575 | 千円 10,325～ 5,721 |
| 年間給与額 (最高～最低) | | 千円 7,143～ 4,497 | 千円 8,810～ 3,817 | 千円 10,158～ 5,155 | 千円 11,972～ 6,324 | 千円 14,510～ 8,094 |

職級別在職状況等（平成17年4月1日現在）（医療職員（看護師））

| 区分 | 計 | 1級 | 2級 | 3級 | 4級 | 5級 | 6級 | 7級 |
|------------------------|----------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|------------------|------------------|------------------|
| 標準的な職位 | | 准看護師 | 看護師 | 看護師長 | 副看護部長 看護師長 | 看護部長 | 看護部長 | 看護部長 |
| 人員 (割合) | 472 人 | 8 人 (1.7%) | 332 人 (70.3%) | 91 人 (19.3%) | 38 人 (8.1%) | 2 人 (0.4%) | 1 人 (0.2%) | 0 人 (0.0%) |
| 年齢 (最高～最低) | | 59～51 歳 | 59～23 歳 | 59～29 歳 | 58～37 歳 | | | |
| 所定内 給与年額 (最高～最低) | | 千円 4,674～ 4,061 | 千円 5,312～ 2,595 | 千円 5,836～ 3,430 | 千円 5,798～ 4,411 | 千円 | 千円 | 千円 |
| 年間給与額 (最高～最低) | | 千円 6,388～ 5,584 | 千円 7,276～ 3,547 | 千円 8,007～ 4,569 | 千円 8,056～ 6,292 | 千円 | 千円 | 千円 |

【注】医療職員(看護師)6級・5級については、該当者が2名以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、「年齢」以下の事項については記載していない。

④賞与（平成16年度）における査定部分の比率（事務・技術職員）

| 区 分 | | 夏季（6月） | 冬季（12月） | 計 |
|------|-----------------|-------------|-------------|-------------|
| 管理職員 | 一律支給分（期末相当） | 64.7 % | 67.6 % | 66.2 % |
| | 査定支給分（勤勉相当）（平均） | 35.3 % | 32.4 % | 33.8 % |
| | 最高～最低 | 46.2～31.0 % | 42.4～28.2 % | 44.1～29.5 % |
| 一般職員 | 一律支給分（期末相当） | 66.4 % | 69.4 % | 68.0 % |
| | 査定支給分（勤勉相当）（平均） | 33.6 % | 30.6 % | 32.0 % |
| | 最高～最低 | 40.4～23.3 % | 37.3～27.8 % | 36.8～26.7 % |

賞与（平成16年度）における査定部分の比率（教育職員（大学教員等））

| 区 分 | | 夏季（6月） | 冬季（12月） | 計 |
|------|-----------------|-------------|-------------|-------------|
| 管理職員 | 一律支給分（期末相当） | 65.9 % | 68.8 % | 67.4 % |
| | 査定支給分（勤勉相当）（平均） | 34.1 % | 31.2 % | 32.6 % |
| | 最高～最低 | 42.2～31.9 % | 42.4～29.2 % | 40.2～30.6 % |
| 一般職員 | 一律支給分（期末相当） | 66.4 % | 69.5 % | 68.0 % |
| | 査定支給分（勤勉相当）（平均） | 33.6 % | 30.5 % | 32.0 % |
| | 最高～最低 | 46.7～31.1 % | 42.5～28.4 % | 42.8～29.7 % |

賞与（平成16年度）における査定部分の比率（医療職員（看護師））

| 区 分 | | 夏季（6月） | 冬季（12月） | 計 |
|------|-----------------|-------------|-------------|-------------|
| 管理職員 | 一律支給分（期末相当） | 60.2 % | 64.8 % | 62.6 % |
| | 査定支給分（勤勉相当）（平均） | 39.8 % | 35.2 % | 37.4 % |
| | 最高～最低 | 42.9～36.4 % | 39.1～30.4 % | 40.9～33.3 % |
| 一般職員 | 一律支給分（期末相当） | 66.0 % | 69.1 % | 67.6 % |
| | 査定支給分（勤勉相当）（平均） | 34.0 % | 30.9 % | 32.4 % |
| | 最高～最低 | 40.4～31.3 % | 37.3～25.6 % | 35.9～29.4 % |

⑤職員と国家公務員及び他の国立大学法人等との給与水準（年額）の比較指標（事務・技術職員／教育職員（大学教員等）／医療職員（看護師））

（事務・技術職員）

| | |
|----------------|-------|
| 対国家公務員（行政職（一）） | 89.8 |
| 対他の国立大学法人等 | 103.2 |

（医療職員（看護師））

| | |
|----------------|-------|
| 対国家公務員（医療職（三）） | 102.6 |
| 対他の国立大学法人等 | 104.9 |

（教育職員（大学教員等））

| | |
|-----------------|-------|
| 対国家公務員（旧教育職（一）） | 106.4 |
| 対他の国立大学法人等 | 104.9 |

注：「対他の国立大学法人等」は、すべての国立大学法人等を一つの法人とみなした場合の給与水準との比較

Ⅲ 総人件費について

| 区 分 | 当年度 （平成16年度） | 前年度 （平成15年度） | 比較増△減 | 中期目標期間開始時 （平成16年度）からの増△減 |
|-------------------------------|------------------|------------------|--------------------------|-----------------------------|
| 給与，報酬等支給総額（A） | 千円 49,198,880 | 千円 49,028,056 | 千円 170,824 (0.35%) | 千円 - |
| 人 件 費 （(A)+退職手当繰入+法定福利厚生費） | 千円 54,495,461 | 千円 49,035,564 | 千円 5,459,897 (11.13%) | 千円 - |
| 最 広 義 人 件 費 | 千円 62,721,464 | 千円 55,428,491 | 千円 7,292,973 (13.16%) | 千円 - |

【注】「前年度（平成15年度）」の数値には法人化により必要となった雇用保険の事業主負担分及び労働者災害補償保険分は含まれていない。

Ⅳ 報酬・給与の考え方、改定について

1 平成16年度における役員報酬・職員給与の改定の概要

| 区 分 | 改定の有無 | 改定率(平均) | 本俸の主な改定内容 | 手当の主な改定内容 |
|---------|-------|---------|-----------|-----------|
| 法人の長 | 無 | | | |
| 役員(常勤) | 無 | | | |
| 役員(非常勤) | 無 | | | |
| 職員 | 有 | | | 寒冷地手当 |

2 役員報酬

① 平成16年度における役員報酬についての業績反映のさせ方

規定上役員は、役員としての業務に対する貢献度を総合的に勘案して増額または減額すること
 があると定めているが、16年度は適用せず、教職員と同等の基準により決定している。
 また、非常勤理事の給与においては、実績を考慮して総長が決定している。

② 役員報酬水準の改定内容

- 法人の長 []
- 理事 []
- 理事(非常勤) []
- 監事 []
- 監事(非常勤) []

3 職員給与

① 人件費管理の基本方針

定員(人数)と予算(金額)により人件費管理をしている。
 効率化係数による人件費の削除等による対応として、定員削減や戦略的な定員の再配置、業務の簡素
 化・合理化等事務改革を方針として定めている。

② 職員給与決定の基本方針

- ア 給与水準の決定に際しての考慮事項とその考え方
 [法人化移行時に本学の方針として、給与に関しては国に準拠すると定めているので、俸給表はもとよ
 り、諸制度は全て国家公務員の給与水準等を考慮し、決定している。]
- イ 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方
 [年功序列的な運用から、能力・適正・実績をより重視した人事制度への移行を検討し、徐々に実施している。]
 [能率、勤務成績が反映される給与の内容]

| 給与種目 | 制度の内容 |
|--------------|---|
| 賞与：勤勉手当(査定分) | 期間内における職員の業績を評価し、成績に応じた支給率になるように実施している。 |
| 特別昇給 | 昇給期間における勤務成績により実施している。 |
| 昇 格 | 長期的な期間(3年)における勤務成績を加味して実施している。 |

ウ 平成16年度における給与制度の主な改正点

寒冷地手当について国に準拠して改正した。
 ・支給地域を1級地から4級地の4区分に改めた。
 ・手当は11月から3月までの各月の初日に在勤する職員に月額で支給することとした。
 ・支給月額が26,380円～7,360円の範囲とした。

Ⅴ 法人が必要と認める事項

特になし

(「公務員の給与改定に関する取扱いについて」(平成16年9月10日閣議決定)に基づく公表)

話題

京都大学未来フォーラム(第13回, 第14回, 第15回)を開催

京都大学では、恒例となった未来フォーラムの第13回目を4月25日(月)、第14回目を5月23日(月)、第15回目を6月27日(月)に時計台記念館百周年記念ホールで開催した。

第13回目は、金田章裕副学長の司会のもと、本学理学部の卒業生で株式会社堀場製作所会長の堀場雅夫氏を講師に招き「自今生涯」と題して講演が行われた。

堀場氏は、在学中の1945年に操業を開始した堀場無線研究所について、当時の苦労やエピソードをユーモアも交えて語られた後、これまでの豊富な経験から、グローバル化に向けて産業のみならずあらゆる面でデファクト・スタンダードを獲得すること、楽しんで仕事や勉学に取り組むこと、自己のアイデンティティをしっかりと持つことの重要性について述べられた。また、最後には、未来は予言するものでなく自分たちで作り上げるものであることを強調され、参加した約400名は、メモを取るなど真剣に聞き入っていた。

第14回目は、本学文学部の卒業生でSF作家の小松左京氏を講師に招き「私の京大時代」と題して講演が行われた。いつもとスタイルを変え、聞き役として、澤田芳郎国際融合創造センター教授と本学法学部卒業でマッサージセラピストの大中咲子氏も壇上に上がり、質問を交えながらの講演となった。

小松氏は、学生時代に指導教官であった野上素一教授や文学部の同学年であった小説家の高橋和巳さ

んに関するお話や、戦時中および京大時代のいろいろなエピソードについてユーモアを交えながら語られ、時折、笑いも起こる楽しい講演となった。集まった約290名の参加者は、小松氏が文理の枠を超えた学問を奨励する京大の学風を評価し、自身の文学と科学が融合したサイエンス・フィクション確立に影響を受けたというお話などの貴重な話に聞き入っていた。

第15回目は、本学理学部の卒業生で文化庁長官・本学名誉教授の河合隼雄氏を講師に招き「人間の科学について」と題して講演が行われた。

臨床心理学者のパイオニアである河合氏は、生きている人間を科学研究の対象とする場合、大変難しいが、希望を捨てずに相手が話をしてくれるまで待つことが大切であり、そうすることによりその人から物語がうまれくる、心を開いて話をしてくれる、こうなれば信頼という関係ができカウンセリングもうまくできることを、これまでの豊富な経験からいくつかの例を上げながらユーモアをまじえ説明された。そして、親子や友人などと良好な人間関係を作るためには、相手から物語がうまれてくるのを待つことが大切であることを強調された。

会場を埋め尽くした500名の参加者は真剣にまた楽しく講演に聞き入り、講演後の質疑応答では、相手の物語の聞く方法等について多くの質問があり、有意義なフォーラムとなった。

大学院情報学研究科 杉本 明洋さんの世界陸上2005出場が決定

大学院情報学研究科2回生の杉本明洋さんが8月にヘルシンキで行われる第10回世界陸上選手権の男子競歩20キロの代表に選ばれた。

杉本さんは、今年1月の日本選手権で参加標準記録Aをクリアしながらも、惜しくも2位となり世界選手権出場は保留となっていたが、6月4日(土)の国際グランプリ競歩ラコルニャ大会(スペイン)で日本人トップの1時間26分15で完歩し、京都大学初の代表入りを果たした。



(世界陸上選手権では、競技ごとにA、Bの2つの参加標準記録が定められており、A標準記録突破者は1国3名まで、A標準突破者がいない国はB標準記録突破者1名が参加できることになっている。

20キロ競歩 A標準 1時間23分00 B標準 1時間24分30。)

杉本さんは、7月4日(月)から長野県で陸連競歩合宿に入り、大会に臨む。

大会は、8月6日(土)~14日(日)で、杉本さんが出場する競歩20キロは、現地時間で初日の18時40分にスタートする。(日本との時差は6時間)

医学部附属病院でボランティアによる「水無月コンサート」を実施

医学部附属病院では、6月22日（水）ボランティアによる「水無月コンサート」を外来棟3階図書コーナー「ほっこり」にて実施した。

このコンサートは、入院患者・外来患者のみなさんを対象として、梅雨の最中“憩いのひととき”をここに感じていただければと企画実施したものであり、当日は用意した椅子が足りなくなる程の盛況で130人以上の参加者があった。患者さんの中には点滴を受けながら参加する方や長期間入院している子ども達の姿もあった。

今回の演奏は京都市立芸術大学の学生の4人グループ「YUZURA弦楽四重奏団」によるものでファーストバイオリン、セカンドバイオリン、ビオラ、チェロから構成されている。

演奏の曲は、ヘンデルからはじまり、誰もが知っている宮崎駿監督の作品、ジブリメドレー（となり

のトトロ～千と千尋の神隠しなど）や映画音楽、童謡そして、アンコールは故美空ひばりさんの「川の流れのように」であり、参加した患者さんの中には、曲に合わせて体を動かすなど、感動のあまり涙する方もあった。全ての曲が終わると会場からは割れんばかりの拍手の渦であった。

（医学部附属病院）



医学部附属病院で安全管理研修会を実施

医学部附属病院では、6月23日（木）新採用の技師並びに事務職員を対象とした安全管理研修会を実施した。今回のテーマは「安全な医療を提供するために」と題したもので40人が参加した。

研修会では安全管理室の広瀬昌博室長、今井理香専任看護師長が講師となり、初めて病院勤務する者でも分かるように、リスクマネジメントの用語の解説、大学病院における医療事故の例を挙げ、事故発生の原因からその対策までを詳しく説明を行った。

説明では、京大病院においてインシデントレポートの9割が、患者さんと24時間接している看護師に集中していることが挙げられ、また、エラーの防止対策として、エタノールは1ℓの四角のボトルとして500mlの精製水と区別しやすくする等の工夫を図っている等具体的な例が示めされた。



この研修を通して、職員一人一人が、診療科・職種・部門の枠を超えてチームで取り組んで行くことが医療事故防止に繋がるということを再認識すると同時に、患者のみなさまに安全な医療を提供するという姿勢を改めて心に誓った。

（医学部附属病院）

公開講座

京都大学21世紀COEプログラム「生物多様性研究の統合のための拠点形成」
霊長類研究所東京公開講座

ーサルからわかること：ラボからフィールドまでー

1. 日 時：9月17日（土）13：00～17：00
2. 場 所：日本科学未来館 東京都江東区青海2-41
3. プログラム：所長挨拶 茂原 信生
「鳥という閉じられた環境に生息するニホンザル」 森 明雄
「脳はどのように発達し老化するか」 林 基治
「骨が好き！ー化石研究の基礎にあるもの」 茂原 信生
「人間の人間性ってなに？」 正高 信男
質問・疑問
司会：上野 吉一
4. 定 員：300名（希望者多数の場合は申込先着順）（参加費無料）
5. 申 込 締 切：8月31日（水）必着
☆いただいた個人情報は当公開講座以外では使用しません。
6. 問い合わせ先：〒484-8506 愛知県犬山市官林41-2
京都大学霊長類研究所「東京公開講座」係
TEL：0568-63-0512 FAX：0568-63-0085
E-mail：to-kyo05@pri.kyoto-u.ac.jp
申込方法等、詳細は霊長類研究所ホームページをご覧ください。
<http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/index-j.html>

編集後記

早朝からセミがにぎやかに合唱をはじめ、いよいよ夏本番となりましたが、この暑さを吹き飛ばしてくれるような大変うれしいニュースが飛び込んできました。情報学研究科修士2回生の杉本明洋さんが、8月6日からフィンランド・ヘルシンキで開催される陸上の世界選手権の、大会初日に行われる男子競歩20キロへの出場が決定したことです。本学から陸上の世界大会への出場は、1952年のヘルシンキ五輪の山本弘一さん以来53年ぶりとのこと。7月25日夕刻に時計台記念館前で行われた壮行会では、尾池総長、東山副学長をはじめ教職員・学生等約200名が応援団とともに激励しました。ふと、カンフォーラの北側の池に目がいったのですが、この池に共生している亀や鯉たちもきっと応援してくれていることでしょう。杉本選手「ガンバレ～!!」

詳細の情報はこちらへ

http://www.kyoto-u.ac.jp/notice/05_notice/ippan/050628.htm

